

三重県に多くのインタープリターを!

「インタープリテーション」とは、自然や文化、歴史遺産などからのメッセージを、わかりやすく伝える活動のことです。その活動を行う人を「インタープリター」と呼びます。

日本では、国立公園のビジターセンターにインタープリターが配置され、訪れる人々に公園内の自然について解説したり、問題提起したりしています。

三重県でインタープリテーション活動を行っている橋本祐子さんに、フランスで体験したインタープリテーション（写真）とインタープリターについて、11月に講演していただきました。それによると、「フランスでは国立公園のほか、いろいろな所でインタープリテーションが行われています。場所によって、インタープリターはボランティアであったり、NGOの職員であったり、公園管理者（公務員）であったりします。これらのインタープリテーションは有料です。職員と同じ仕事をしているボランティアのインタープリターは報償をもらわず、料金は施設の運営費などにあてられています。」ということでした。

皆さんが地域や日本をこれからどうしていくのか考える際、自然や文化、歴史遺産からのメッセージを正しく受けとめておくことはとても大切なことです。そのメッセージを皆さんに伝えるインタープリターは、今後ますます活躍が期待されます。

三重県では、インタープリターが伊勢志摩国立公園の横山ビジターセンターや、宮川流域ルネッサンス協議会などで活躍しています。

三重県環境学習情報センターでは地域や公的機関で活動するインタープリター養成を目指して、平成13年度から養成講座を開講しています。



フランスでのインタープリテーション体験
(右端がインタープリター)

第一回みえ環境学習セミナー（若い力とエネルギー）受講者による“環境学習サークル「みえ」”が設立される!!

地球環境問題から環境活動の実践までの10講座に、高校・大学・一般社会人34名が県内各地から受講され、21名に修了証書が手渡されました。（6月から10月まで10講座開催）

その後受講者による“環境学習サークル「みえ」”ができ、会員相互の親睦と当センターとの連携を計りながら、環境学習のための事業を積極的に支援することや環境についての意識向上を目的として設立されました。



セミナーに参加した岡田亜紀さんのおたよりから（松阪大）

修了証書授与式にて

“環境問題についてもっと知りたい”という理由で参加しました。実際セミナーに参加して環境問題に関する知識を多く得ることが出来ました。同時に“人と人とのつながりの大切さ”を感じ、一人でも多くの人に環境保全の大切さを伝えて行きたいです。



代表に選ばれた小津昌平さん（四日市市）よりコメント

「環境問題の解決なしには人類の将来はない」と言われています。

すべての人々が環境を意識したライフスタイルに変革する事が求められています、私達環境ボランティアの使命はますます重大となります、ともに明日のためにがんばりましょう。（12/15発足の会より）

みに来て下さいね 記念陶板絵付けセンター周囲に屋外展示

講座や各イベント会場などで「陶板絵付け教室」を開催します。あらかじめ用意しておいたリサイクル陶板に顔料を使い、参加者が好きな絵や文字で「環境への想い」を描いてもらいます。絵付けができあがった後は陶板を焼成に出し、完成した陶板は環境学習情報センターの周囲に屋外展示しています。（絵付け焼成の実費は参加者負担）



同じく環境功労者の記念陶板の展示もご覧下さい。

ちよつと環境学習

宇宙から見た地球環境

—宇宙と地球さん—



(子どもエコクラブ県内交流会inひさいにて)

バーチャル宇宙旅行をしながら、地球の現状をみんなで考えてみよう。（ビデオとトーク）それでは宇宙旅行に出発しましょう!

○宇宙と地球のミニ学習：銀河系の直径は何万年でわれわれの太陽系はだいたいどのあたりにいるのかな。…「地球さんは宇宙からすればあるかないかわかんないくらいちいちゃいよ」「でも、宇宙で一番きれいな星さ」

○スペースシャトル内、無重力状態での生活風景、生物の状態、おもちゃはどんな動きをするかな?

○「宇宙はこんなに楽しい、そして宇宙から見た地球はこんなに美しく、真珠みたい、でも近づいて行くと少し病みみたい、アース君といっしょに地球を調べよう」(アニメ上映)

アニメ「地球の秘密」地球環境破壊をわかりやすく、アース君(アニメキャラクター)が教える。アース君から「病んでいる地球をどうしたら救えるかな?」提案、…

「さあ、よい子のみなさんアース君が聞いてたよね、人間さんが病気の時、お医者さんがいるけど、地球さんの病気を診るお医者さんっているかな?」「ほくたち、わたしたち」

地球の未来をになう「僕たち私たち」よろしくお祈りしま〜す。

環境を考えた省エネ生活

Q&A 第3回寒さに負けない暖房・省エネ

Q ニュースで地球は暑くなってきていると聞きました。本当ですか?でも今年の冬も寒くなってきました。地球が暑くならず部屋を暖かくできないの?

A 地球の平均気温が高くなっていくでしょう。地球気温が暖かくなっている原因は温室効果ガス(※1)で、その排出量は増加していることが報告されています。

21世紀末までに大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度が現在の1.5倍~2.6倍(540~970ppm)上昇し、気温は最高5.8℃上がり、その時海面水位が最高0.88m上昇することなどを予測しています。

このままでは地球の温暖化によって、海抜が低い土地の水没、異常気象による洪水や干ばつ、食糧不足、マラリヤがひろまったり呼吸器系疾患など甚大な被害が予測されています。

「二酸化炭素なんて僕は出してないよ!」と思っていないですか。実は、電気を使ったり、ガスを使ったりすると

二酸化炭素を排出しています。特に冬の季節は、電気・ガス・灯油など部屋の温度を暖めるために、たくさん二酸化炭素も多く排出しています。

ここでは、暖房の原点に帰って適温とは何かを考えてみましょう。

「室温は20℃」が一般的にいわれています。でも、私たちが勉強をするには、17℃位が適しているというデータがあります。また、同じ室温でも床面の温度によってかなり暖かさの感覚が変わります。机に向かって勉強する場合、床面の温度を体温に近い温度(36℃前後)にすると、室内の温度を15℃位まで下げても体感温度では、20℃と同じになります。

つまり、『室温』といっても、色々な暖房方法によって私達が受ける温度感覚が変わることに気が付きます。

そして、暖房温度を1~2℃下げるとエネルギーが10%節約できます。エネルギーを作るときに排出される二酸化炭素を減らし地球温暖化防止にも役立ち、更に、電気代ガス代灯油代などの光熱費も安くなる。省エネルギーは地球と家計にやさしい一石二鳥の活動です。真冬ののに、室温を高くして薄着で過ごしているような事はやめましょうね。

【※1 温室効果ガスは、二酸化炭素・メタンなどがあります。温室効果ガスの一番大きな原因が二酸化炭素といわれています。温室効果ガスの約64%が二酸化炭素です。】

あなたはさっ

のぞいてみましたか?

<http://www.eco.pref.mie.jp/>

三重県の環境に関する情報満載のホームページ「三重の環境」(<http://www.eco.pref.mie.jp/>)がおかげさまで“環境goo大賞2001”(<http://eco.goo.ne.jp/taisyou/index.html>)の自治体部門で大賞を受賞し、またアクセス数も12月までに200万件を突破しました。

「そんなのあるんだ」「まだ見てない」「こんな環境の情報がほしい」という方、ぜひぜひのぞいてみてください!きっと役に立つことでしょう。

オススメは、おとなから子どもまでわかりやすく環境を紹介している“環境学習の部屋”です。ごみ・水・大気など、身のまわりの環境のお話がいっぱいです。



突破